

全国にホール30店舗を展開する夢コーポレーション。設置する遊技機総台数はパチンコがおよそ1万台で、パチスロがおよそ7000台だ。パチンコの約76%、パチスロの約50%を低貸しで運用している(2024年8月中旬現在)。

パチスロ専門店を除く併設店28軒を分類すると、通常貸しが一切ない低貸し専門店が11軒。低貸し台数が通常貸し台数を上回る店舗は8軒で、通常貸しのほうが多い店舗は9軒だ。

通常貸しのほうが多い9軒の中で、『YUMEYA 浦安店』(千葉県)と『夢屋 小諸店』には低貸しが一切ない。さらに『夢屋 小諸店』は系列店で唯一、パチンコ全台を4円超(500円115玉貸し)で運用。稼ぎ頭として、重要な意味をもつ。総台数は標準的な574台(パチンコ280台、パチスロ294台)。4月にパチスロを40台増台した。パチスロは全台、1000円46枚貸し。

人口約4・0万人の小諸市には、パチンコ店が4軒(総台数約1900台)建つ。同店から南方に500メートル進むと、佐久市(約9・6万人、ホール8軒、約3900台)。東御市を通じて北西方向に18キロ進むと、上田市(約15・0万人、ホール8軒、約5000台)にたどり着く。

最新設備で利便性向上

そんな環境の同店が7月27日、マースエンジニアリングの次世代型セルフ交換機『エヴォールスマートセルフ交換機』をトップスピードで導入した。その経緯を西山隆史ストアマネジャーは次のように話す。

「発端は紙幣の改刷でした。既存の一部ビルバリがどうしても新札に対応できず、ユニットを一新する必要に迫られました。2社の候補のうち、周辺設備をフルラインナップで揃えるマースさんを選択。最新のセルフ交換機は、進化系セルフPOSとして導入しました」

次世代型セルフ交換機『エヴォールスマートセルフ交換機』は、遊技客が景品交換とカード残高の精算をその場で行える業界初のシステムだ。15インチの液晶タッチパネルを指先で簡単操作。初めてでも迷わないように、音声によるアシストが付いている。

「セルフPOSや端玉のセルフバイキングは、長野市や上田市でたまに見かける程度の珍しいものです。念のためリニューアルから3日間程度は、カウンター周りにスタッフが常駐させましたが、お客様は難なくスムーズに使えていた印象です」

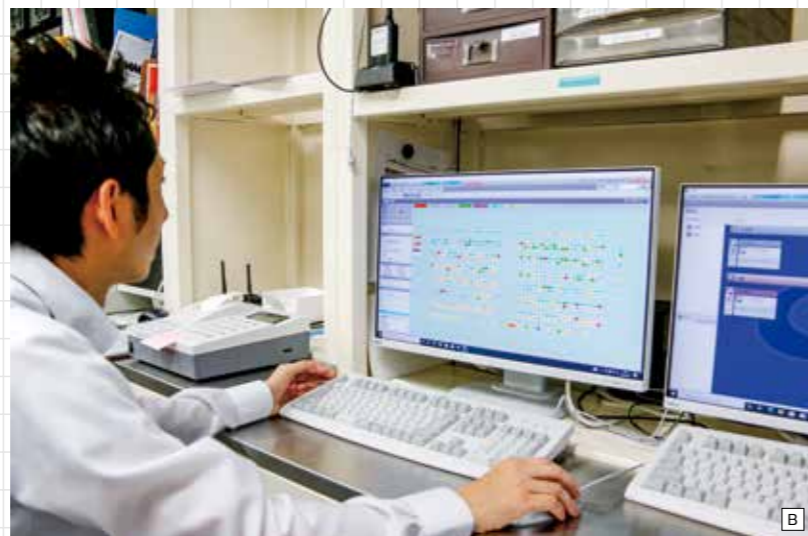


夢屋 小諸店 (長野県小諸市)

グループ重要店が最新設備を導入

マースエンジニアリング『エヴォールスマートセルフ交換機』

夢コーポレーション(愛知県豊橋市)の『夢屋 小諸店』が全国に先駆けて、マースエンジニアリングの最新設備を導入した。7月初旬に発表されたばかりの次世代型セルフ交換機だ。景品交換とカード精算を同時に完結できる効率の良さが、遊技客に支持されている。



A/増台で広範囲から集客するようになったパチスロコーナー B/稼働データの詳細を戦略に生かす C/無人カウンターには『エヴォールスマートセルフ交換機』を2台設置 D/LT機やスマパチも高稼働 E/西山ストアマネジャー



ユニットやメダルパーソナル(各台計数機)、紙幣搬送システムなど、周辺設備をマース製に統一する中で、西山ストアマネジャーが特に期待を寄せるのが会員分析だ。

「まだ十分に使いこなせていませんが、これまでよりもいろいろな情報を詳しく見られるようになりました。回遊データ一つを挙げても、ワンデーカードの履歴まで追える。以前は分からなかったことが見えるようになり、視界が一気に開けました」

現在は1時間に2回程度、稼働データをチェック。地域一番の集客を目指す。パチスロを増台したことを契機に、佐久市や上田市からも集まるようになったという。

同店が06年8月にブランドオープンしたとき、西山ストアマネジャーはオープンニングスタッフだった。当時は新卒2年目ほど。今や多店舗勤務を経て、店長経験も積んだ。より良い店舗にしたい想いは非常に強い。

「高レート専門店として本社からの投資配分がグループ他店よりも多い分、見本となるような成果で応えたい。マース製品の導入で、それができる環境が整ったと感じています。今後は効率化された時間をお客様観察や人材教育に充て、今まで気づかなかったポイントを拾いたい。日々の改善の繰り返しです」



『エヴォールスマートセルフ交換機』を操作する遊技客